



出港準備完了トマルベシ

四児王兵曹長ハ現有兵力ヲ以テ対海上射撃ヲ準備スベシ

五部外者ハ尤、如ク洞窟ヲ配當ス

海軍見張所 第六洞窟、機銃隊 第六洞窟 第一洞窟

、電探 第四洞窟、砲台 第六洞窟 第二洞窟

測候所 彈藥庫洞窟 慰安所 第五洞窟

六本朝食ハ携帶口糧ニテ使用スベシ

七、余ハ第一洞窟待機所ニ在リ

八沖地区隊作命第三十一號 三月二十八日一〇三〇 沖大東島

一、彼我ノ態勢ハ既ニ承知シタルカ如ク

二、地区隊ハ長期待久ヲ強化スルヲ洞窟戦斗準備ヲ促進セントス

三、各隊ハ尤、如ク洞窟ヲ確保シ速クニ待機準備ヲ完了スベシ

本部 第一洞窟 第一小隊 第六洞窟

第二小隊 第二洞窟 第三小隊 第三洞窟

作命

二對シ艦砲射撃ヲ開始ス

守備隊情電第四一〇號

艦砲射撃状況ニ七〇度一三〇度艦艇約八隻距岸一万分間約三四發一五一二種級照明彈混合主トシテ當初水際及中央ニ對シ射撃ス

守備隊情電第四一七號

十六時十五分南大東島一八〇度 A3. UA3. B1. C7. D10.

T2. 不詳ヲ含ム三〇數隻侵入中ナリ

七、沖地区隊作命第二十號 三月二十八日一〇三〇 沖大東島

一、昨二十日ニ三五〇南大東島一七〇度一三〇度ニ艦艇約八隻水際附近ニ艦砲射撃ヲ開始ス。〇五六南大東島二〇〇度

一五軒ニ戰艦ヲ含ム機動部隊五一〇隻南下中

二、地区隊ハ敵ノ擾亂攻衝ヲ破碎セントス

三、各隊ハ洞窟待機所ニ於テ極力損害ヲ減少スト共ニ

志守

信守

所分隊 第二洞窟 A分隊 第一洞窟
 二號通信第一洞窟 三号甲通信 彈藥庫洞窟
 海軍見張所第六洞窟 海軍機銃隊第六洞窟(第一洞窟)
 海軍電探 第四洞窟 海軍砲台 第六洞窟(第二洞窟)
 測候所 彈藥庫洞窟 慰勞所 第四洞窟
 四辻中尉の所帯 兵力ヲ以テ第五洞窟 進路ヲ拡大スル
 五、立石中尉の本計画ニ基キ糧秣ノ確保ヲ強化スル
 六、大坪少尉の本計画ニ基キ彈藥ヲ確保スル
 七、吉村少尉ノ建築材料ノ配當ヲ区處スル
 八、軍医ノ保健対策ヲ指導スル
 九、井垣伍長ノ所帯ノ兵力ヲ以テ洞窟内通信網ヲ構成スル
 一〇、余ハ第一洞窟ニ在リ
 九、沖地区隊 命令第三三三號 三月三十一日ハ
 一、敵情ニ關シ新報ヲ得ズ

二、地区隊ハ至嚴ナル警戒ヲ示シ敵ノ奇襲ヲ破碎セントス
 三、各隊ハ洞窟分隊所ニ於テ海陸ニト共ニ洞窟守備所ノ作業ヲ
 促進スル
 四、余ハミモ高地ヲ遊撃スル
 三、沖地区隊 命令第三三三號 三月三十一日ハ
 一、本日一六、五南大東島一ノ口度 A三、VA三、B一、D一〇、T二ニ詳シク合入
 三、敵襲侵入中ナリ大東列島ヲ南大東島ニ對シテ敵ノ上陸ヲ阻撃スル
 二、地区隊ハ至嚴ナル警戒ヲ實施シ敵ノ奇襲ヲ防止スル
 三、各隊ハ戰鬥準備ヲ完了シ洞窟守備所ニ於テ出撃ヲ準備スル
 四、第一三三小隊ハ各長以下七名ノ監視哨ヲ所帯シ位置ニ增加配置
 スル
 五、A分隊ハ第一洞窟ニ於テ東海岸ニ對シテ射撃ヲ準備スル
 六、所分隊ハ水際側防火力ヲ發揮シ遺憾ナク準備スル
 七、見玉兵曹長ハ現有兵力ヲ以テ對海上射撃ヲ準備スル

原簿

日命

一 海軍部隊並藤少尉の電探機を倉庫に地上戦準備スベシ
 本多兵曹長の対空戦平、外地上戦準備完了スベシ
 各夜間、待機ハ社中尉に連絡スベシ(南機銃隊ニ於テハ夜間、
 待機ハ指揮班長に連絡スベシ)
 二 通信分隊ハ器材、掩護、連絡確保ニ遺憾ナキヲ期スベシ
 三 測候所長ハ土石少尉に連絡し待機並ニ自衛ヲ強ニスベシ
 四 軍慰安所ハ第一河窟内ニ在リ
 五 軍醫ハ防護設備、完了スベシ
 六 明朝食ハ携帶口糧ニ使用スベシ
 七 司令部並ニ和新聞結ハス
 八 五、余ハ第一河窟待機所ニ在リ
 九 三守備隊情電 第三〇九號 (本文省略)
 十 三守地区隊命令
 十一 士官 陸軍曹長 溝江保次

通信連絡
事項

一 士官見習 陸軍兵長 酒井定家
 各頭書、通り来週々番勤務ニ服スベシ
 三守備隊情電 第四〇四號
 一 當地、無線電機、中長波送信機被爆シ短波送信機
 機、倉田ニシテ受信機及電地類大發ニシテ異状ナシ
 二 短波送信機開設ハ豫定ヨリ三日延長見込ナリ規程
 連絡時於テ職取ヲ以テ事務信ヲハ放送セラシ度
 三 災害復舊ノ業務負担ニ協力ナリ、右中支氣袋並ニ福岡
 管区警務署並ニ津護署警務署ニ通報アリ度
 四 南四諸島氣象無線管所既要ナシ
 五 名瀬測候所(TFM)15KC毎時0分
 六 段野島測候所(FUW)15KC毎時3分前項ヨリ10分前並
 七 下ノ送信機
 八 三守備隊情電(下ノ)15KC毎時0分
 九 三守備隊情電(下ノ)15KC毎時0分

20分頃より南西諸島各氣象局(FYK)へ送信ス

(四) 石垣島測候所(TG)に3300KC毎時一分一五分より(FYT)へ送信ス
(自勤発信)

(五) 與那國島測候所(THN)に3300KC毎時一分一十分頃(TCE)へ送信ス
(六) 宮古島測候所(TNZ)に3300KC及4400KC毎時一分一十分頃(TCE)へ送信ス

西守備隊情報電第三一四號

戦司ニ鑑ミ暗號書類非常處置ニ關シテ、如ク處理スベシ

一 通信ヲ確保シタル場合ハ守備隊長其都度之ヲ示ス

二 通信杜絶セル場合ハ戰況ヲ推移ニ應ジテ守隊長自ラテ如ク處理ス

第一回燒却處分

1. 使用停止モノ(但シ再使用ヲ命ゼラレタルモノヲ除ク)
2. 現用モノ、豫備部數、
3. 未使用モノ、現用ヲ基準トセル部數、及置シ其他ヲ

第二回燒却處分

(一) 未使用モノ、最少限度殘置シ其他ヲ

(二) 現用モノ、狀況ニ應ジテ逐次部數ヲ減少ス

第三回燒却處分

(一) 狀況切迫シ直ニ破壞直前ニ未使用モノ全部(再使用モノヲ含ム)

(二) 破壞時現用モノ全部

三前二項ノ燒却報告ハ其都度直ニ報告スベシ(但シ第二項ノ場合ハ
ニ於テハ各種手段ヲ講シ軍司令部ニ報告ス)

報告ハ燒却暗號書名、部數、燒却部隊名、日時、燒却回数、
燒却責任將校名、ミース

尚、機密ニ燒却シタル實戰アル暗號書事故發生レザルノ
今後、暗號書運用ニ影響ヲ及ボスカヤニトテ、極嚴ニ注意スル

四本電報了解ハ直ニ返電スベシ

五沖地区隊電第九九號

貴電三二四號了解ス

二港空訂正
電報機

氣象
 人員異動
 三月二十九日
 中東島
 勤務
 情報

一、第一監視哨ニ於ケル海岸状況ハ如シ
 風速ハ米一〇米、波浪七米、視界九軒
 二、本日總員三六名、入院五名、入童二名、練兵休三名、劇務休一名
 三、河窟待機所ニ於テ戰鬥準備ヲ強化
 四、八〇〇陸海軍及部外幹部集合ニ隊長ヲ情報ニシテ説明アリ
 五、一八三〇陸海軍及部外幹部集合ニ隊長ヲ諸訓電傳達並ニ訓示アリ
 六、松尾軍曹以下七名、地区隊衛兵勤務ニ服ス
 七、第一小隊荒木伍長以下九名、第一監視哨ニ於テ
 八、第二小隊本日軍曹以下九名、第二監視哨ニ於テ
 九、第三小隊南田伍長以下二名、第三監視哨ニ於テ
 十、夫々勤監視勤務ニ服ス
 十一、四守備隊情電第四二〇號

命令

一、A04 B11 C17 D16 T4 敵艦艇ハ一六時一五分南大東島
 一八〇度方向ヨリ進入セリ、一ノ万米ニ西海岸ヲ徐視艦砲
 射撃ヲ實施スルトナリ、一七時三〇分ニ七〇度方向ニ艦影ヲ没
 二、一八時五分一八時十分間ニ七〇度海上ニ於テ艦砲射撃ヲ
 發射音ヲレキモノヲ四〇〇發聽取ス
 三、其ノ後、狀況ハ不明ナリ
 四、守備隊ハ本日朝敵、上陸ヲ豫想シ、戰鬥準備ヲ完了セリ
 五、守備隊情電第四二一號
 六、中東島、狀況敵艦艇ハ三日未逐次増加シ、元日朝未
 飛行機ヲ以テスル攻撃開始、艦砲射撃ヲ北飛行場
 中飛行場附近最モ多ク、度良間島方向ヨリ上陸開始、
 徴兵々顯著ナリ
 七、六中地区隊命令第二四號 三月二十九日
 八、A04 B11 C17 D16 T4 敵艦艇ハ昨一六二五南大東島

一八〇度、方向より侵入六行一〇行ニ西海岸ヲ除行艦砲射東
 ヲ實施スルトナリ一七〇度ニ七〇度、方向ニ艦影ヲ没ス次イテ
 一六〇度ヨリ一五〇度ニ七〇度、海上ニ於テ艦砲射東、發射音
 ラレキモ、四〇〇發獲取ス 其後、狀況不明ナリ
 大東島守備隊ハ本テ六日朝敵、上陸ヲ予想シ戰準備完了
 二地区隊ハ至嚴ナル警戒ヲ續行シ敵、上陸企圖ヲ破碎消滅セトス
 三、各隊ハ現態勢ヲ以テ待機シ戰準備ヲ強化スベシ
 四、對空監視哨長ハ現兵力ヲ以テ本部、連絡遺囑ヲ期スベシ
 服務要領ハ別ニ指示ス
 五、各隊長指揮下ニ兵器彈藥等ヲ入リ確實ニ實施スベシ
 六、任田軍曹ハ二機發射機ヲ續行スベシ
 七、高橋軍曹ハ所管、兵力ヲ以テ通信機材ヲ續行スベシ
 八、五子ノ對ハ測候所長ト連絡器材ヲ通信機材、移轉機
 機材ヲ派進スベシ

南支隊

海軍西部隊ハ別命ニ依リ地上戰準備ヲ待機スルベシ
 但シ機関銃隊對空戰ハ本隊兵曹長ヲ於テ行フベシ
 一〇、給養ハ別命ヲ以テ炊爨、海陸、携帶口糧ニ準テ使用ハ
 其ノ節度示ス
 三、余ハ第一回密待機中ニ在リ
 六、中地区隊命令
 一、本隊、元朝、週番勤務ヲ免ズ
 八、守備隊情報第三二八號
 四月一日夜、時ヨリ運轉機ニヨリ分隊、部隊用換字表ハ號、
 使用開始ヲ命ズ、故テ直接、戰機、關係、電報、發信ヲ禁止ス
 大守備隊情報第三二八號
 一、參謀總長ヨリ南西諸島方面、戰況上表ニ送レ
 今次作戰ハ帝國存亡ノ決戦ヲ舉、軍奮勵ヲ以テ其ノ目的達成
 ニ當リテカサレドモ

訓示

日命

海軍

通信連絡
事項

ト、御言葉ヲ給ヒタル旨軍司令官ヨリ傳達アリタルヲ付録ニ傳達ス
 二、地区隊長以下直シテ聖旨ヲ傳達シ健闘ヲ以テ醜敵ヲ水際ニ
 擊滅シ難慮ヲ安ニ奉テシトテ切望ス
 武運ノ長久ヲ祈ル
 三、守備隊情報第三一九號
 軍司令官ヨリタル也、其ノ訓電アリタルヲ付傳達ス
 今次作戰ヲ開始スルニ當リ愛護ナル御言葉ヲ給ヒタル旨感
 二、艦ノズ、軍ノ先鋒ハ既ニ特攻ヲ以テ録録タル戦果ヲ得テ
 全員死カラル蓋シテ米飯ヲ遺棄シテ艦ノズ、艦ノズ
 貴隊健闘ヲ祈ル
 二、守備隊情報第三二〇號
 一、四月一日夜時ヨリ指定用略號ヲ付テ、其ノ配當ス
 區別付檢字表四號(大東守電第313號)ニ依リ換字セルモノ
 ヲ使用ス

氣象

人員異動

三月三十日
雨
沖大東島
勤務

(1) 機密 0000 1111 2222 3333
 (2) 親展 4444 5555 6666 7777
 (3) 機密親展 8888 9999
 二、本電報ヲ了解シ經テ點檢返
 三、第二監視哨ニ於テル海岸ノ状況ヲ、如レ
 風速 五米—二米 波浪 六米 視界 〇—十
 三、本日總員三三名入隊五名入直三名練兵三名劇務休一名
 一、西澤伍長以下二名測候所補強作業實施
 二、西澤伍長以下二名測候所移轉(洞窟内)作業開始
 三、頭一八〇〇 戰鬥教練實施(小隊内攻)
 四、田川伍長以下七名地区隊衛兵勤務ニ服ス
 第一小隊出口軍曹以下九名第一監視哨ニ於テ
 第二小隊松尾軍曹以下九名第二監視哨ニ於テ
 第三小隊南田伍長以下二名第三監視哨ニ於テ
 夫々監視勤務ニ服ス

情報

五、沖地区隊情電第一〇〇號

二、二〇B二四一機三六〇度ヨリ侵入沖合一五〇〇ヨリ高度五〇〇

ヲ以テ旋回偵察、後三〇度ニ脱去ス

雲量一〇、雲高一五〇〇、視界三

六、守備隊情電第四二一號

沖繩島本島、狀況敵、艦艇ハ三〇日未逐次増加シ三九日

朝未飛行機ヲ以テスル攻直開散、艦砲射撃北飛行場

中飛行場附近最モ多ク度、良間島方向ヨリ、上陸開始、

徴愈々顯著ナリ

訓示

七、守備隊情電第三二二號

一、軍司令官ヨリ重テテ、訓電ニ接ス

沖繩本島方面ニ敵主力未攻シ貴島又急迫、報ニ接ス

皇國安危將ニ此、期ナリ、相携テ大君、御界ヲ為醜敵

ヲ擊碎シ、罪旨ニ對シ應ヘ奉リニトナ期ス

從心

通信連絡事項

八、守備隊情電第五三號

無限亂數表、發信者信第一號、使用更番號

(第一回目)至急返

氣象

九、第三監視哨ニ於ケル海岸、狀況ト、如シ

風速一〇米―二六米、波浪五米、視界三軒

一〇、本日總員三三六名入院五名、入室三名、練兵休三名、劇務休一名

人員異動

三月三十日

一、至一七〇〇、洞窟待機所補強作業實施

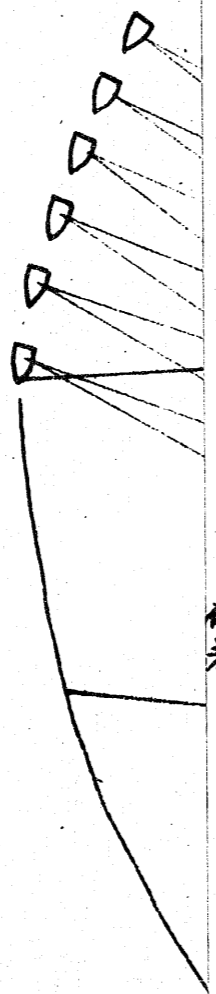
二、至二〇〇〇、戰鬥教練實施(小隊内攻)

三、荒木伍長以下七名地区隊衛兵勤務ニ服ス

第一小隊 富永軍曹以下九名第一監視哨ニ於テ

第二小隊 内川軍曹以下九名第二監視哨ニ於テ

沖大東島勤務



備考

情報
氣象
人員異動

第三小隊本山軍曹以下三名第三監視哨ニ於テ
夫々監視勤務ニ服ス

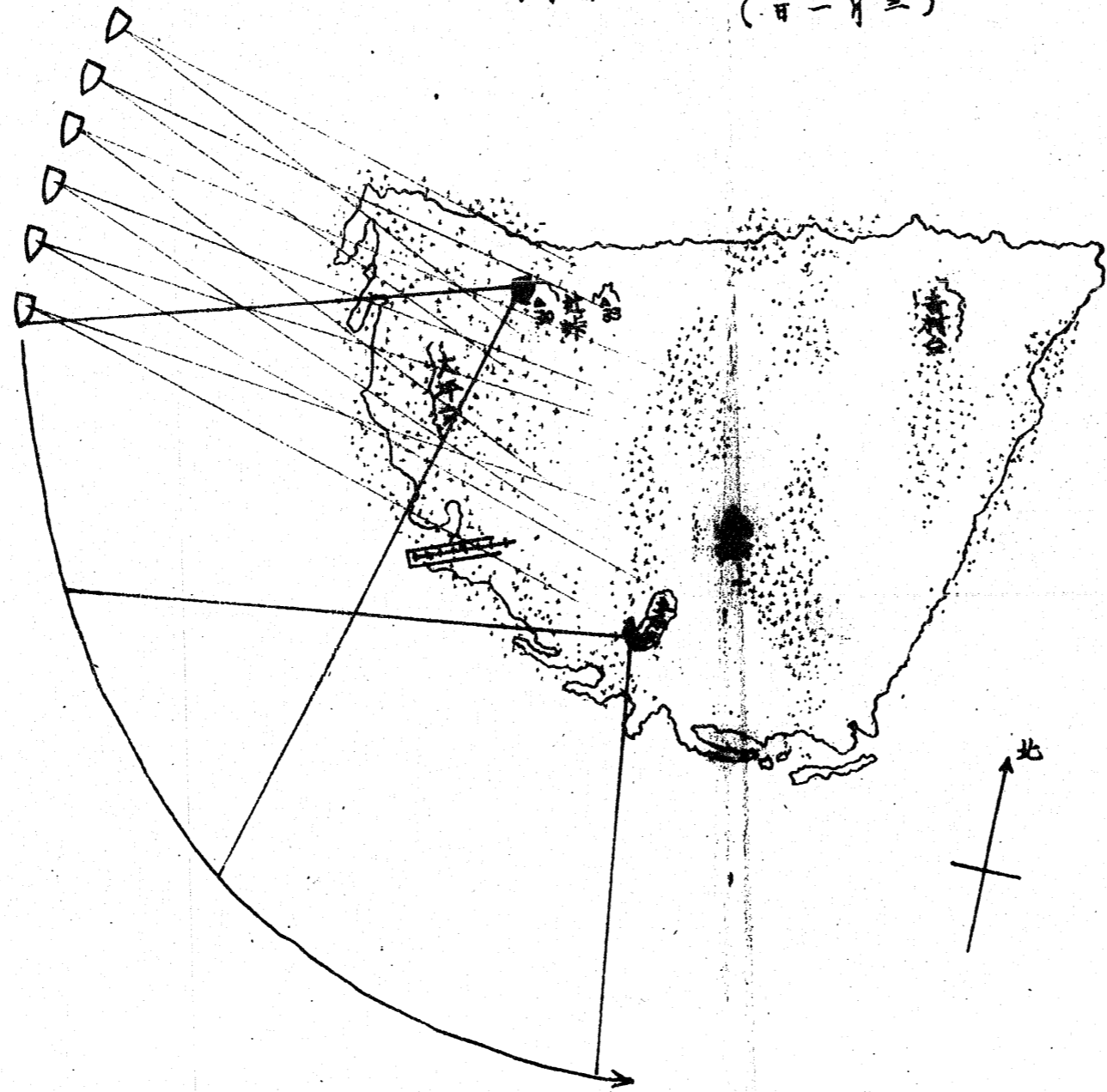
四 新報ヲ得ズ

五 第一監視哨ニ於ケル海岸状況无ク如シ

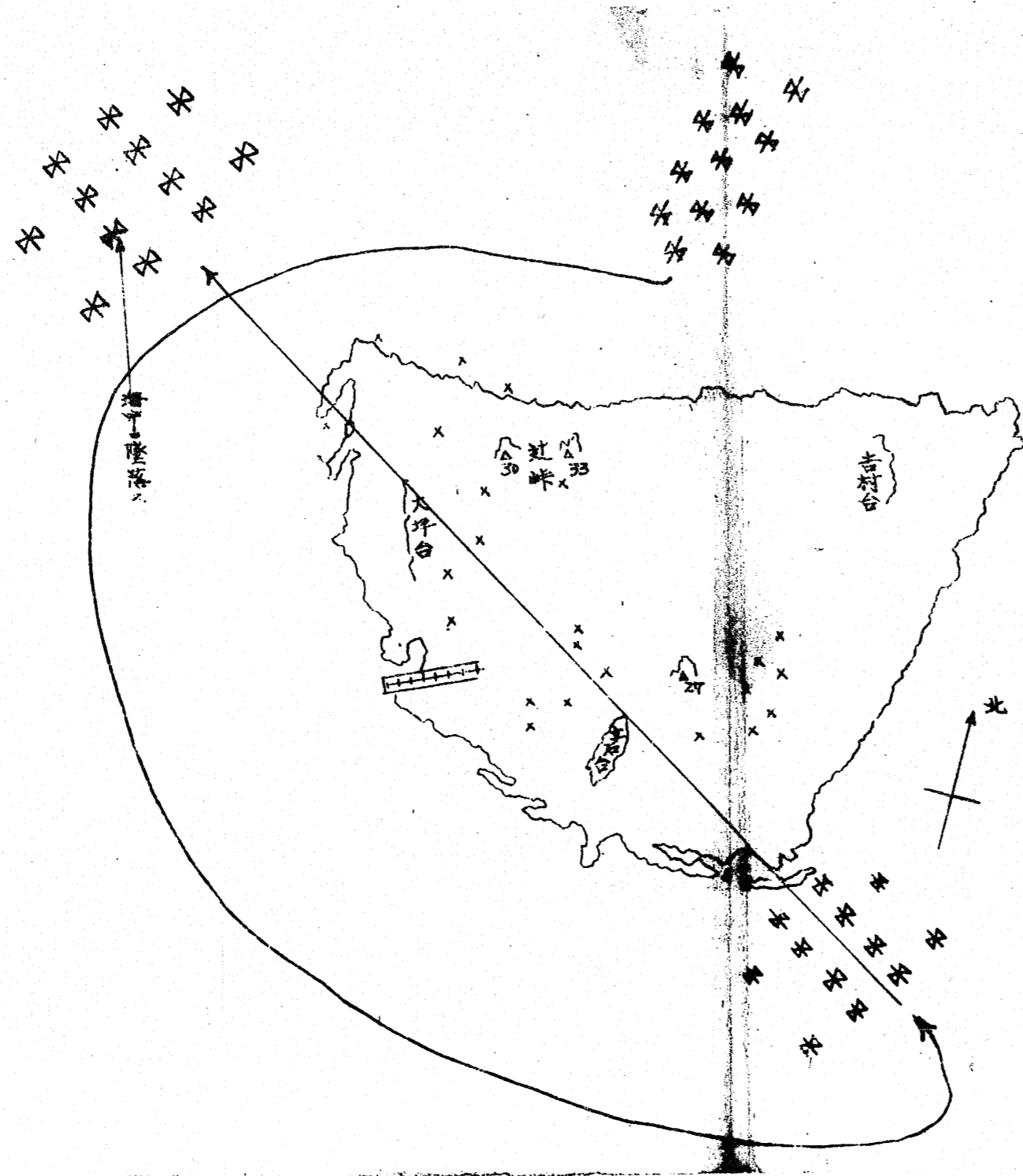
風速 九米—六米 波浪四米 視界八軒

六 本日總員ニ六名入院五名入室三名練兵休二名劇務休一名

敵艦被擊沉狀圖
(三月一日)



備考
 一、時間 二、四五——〇二五
 二、艦種 巡洋艦及驅逐艦
 三、數量 五——七
 四、使用彈 十五種及十五種榴彈
 五、彈數 四萬發
 六、海軍 二〇〇〇名
 七、其他 約五〇〇名
 八、不詳彈約二〇發



敵機來襲被彈狀況要圖

(五月二十三日)

備考

- 一、第一夜 〇七三—〇七五
- 二、第二夜 〇七三—〇七五
- 三、第三夜 〇七三—〇七五
- 四、第四夜 〇七三—〇七五
- 五、投下爆彈 二回
- 六、敵機被彈 約六〇發
- 七、擊墜 一機

冲地区隊命令別紙

(三月十九日)

慰靈祭計画表

一 祭場 第一號兵舎東側廣場

二 集合時刻 八時三十分

三 参列者 全員(除監視哨兵勤務者)

先任者、引率員以下集合は社中村、指揮官等

但、第三小隊第一分隊員遺骨奉持班(隨從者)は

單獨軍装(略)服用(除儀仗兵)

四 服装

1. 全隊指揮 社中尉

2. 葬儀本員長 吉村少尉

3. 本員 大坪少尉

清江曹長

小波曹長

〃

〃

六儀仗兵

1. 編成小隊長 立石小尉

小隊二小隊各一分隊長以下一名

列以手全員

2. 服裝 儀式軍裝(除背囊)

3. 集合 八野一分隊三隊四隊等場

儀仗兵長集合同時本員長連絡ヨナシ

七準備

1. 井上軍曹八使役兵三名、以八野中目三〇、近江軍曹八連絡、基標

改運場所整備ヨナシ

2. 各小隊八野中目使役兵各一名指揮班從隊各三名、一五〇、近第一

親兵會前差出、清江軍曹長指示受テ、祭場、設備並ニ

清掃、實施ス

3. 儀仗兵長ヨシヨシ、連絡、祭壇準備ヨナシ

式 順

参列者著席

遺骨到着

閉式、辞

修被

祝詞

祭文

弔詞

弔電披露

玉串奉奠

1. 隊長

2. 關係上官

3. 奉奠代表

儀仗兵敬禮

閉式、辞

遺骨退場

儀仗兵退場

部隊退場

